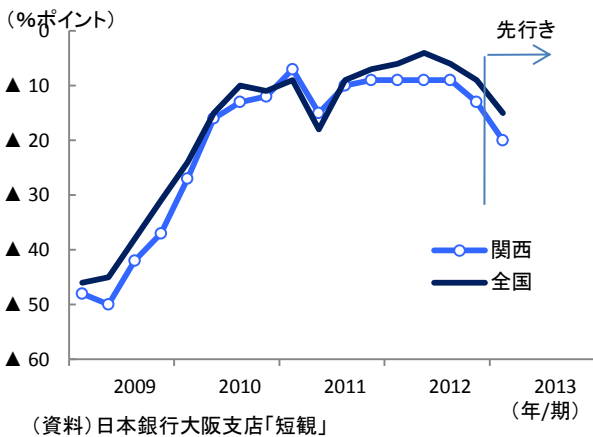


《関西経済シリーズ No.2》

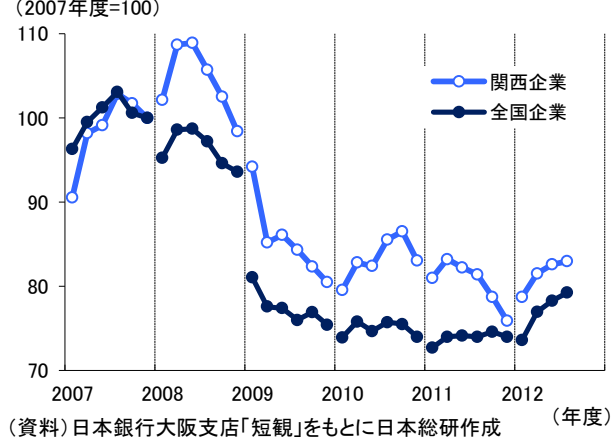
## 先行きの暗雲示す近畿短観

- (1) 日銀短観12月調査（近畿地区）によると、業況判断DI（全産業）は▲13と6期ぶりに悪化。主因は一般機械・電気機械・輸送用機械といった加工型製造業の輸出の不振。さらに2013年3月予測値も大幅悪化。業種別には鉄鋼、化学といった素材業種や物品賃貸、対事業所サービス、対個人サービス、卸売、小売などの幅広い産業で企業マインドが落ち込む見通し。
- (2) 企業マインドの悪化は、これまでのところ実体経済に大きくは波及していない。短観の雇用判断DIは横這いとどまったほか、2012年度設備投資計画はむしろ増額修正。裏返せば、輸出減少を契機とした景気悪化のマグマは企業のなかに蓄積している形。短観の2012年度経常利益計画（全産業）は前年度比18.4%減と、前回調査比14.4%ポイントの大幅下方修正。
- (3) 今後は企業部門の不振が、所得・雇用環境の悪化を通じて、現状横這い圏内で推移している個人消費を下押しする懸念あり。関西経済は引き続き停滞を余儀なくされる公算大。
- (4) 来年春以降は中国や米国の景気回復が軌道に乗るとみられる。外需の取り込みに向け、競争力を再構築していくことが関西企業の課題。

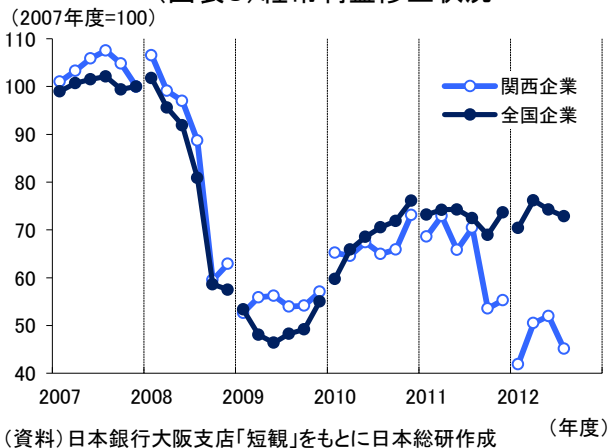
(図表1) 業況判断DI(全規模全産業)



(図表2) 設備投資計画修正状況



(図表3) 経常利益修正状況



(図表4) 業態別小売販売額(前年同月比)と消費者態度指数(季節調整値)の動向

